日本語教室・岡山　講師団会議の報告

新たな充実へむけて

久々に、日本語教室・岡山の講師団会議が開かれました。（2月22日・長岡にて）

孤児のためにこそ～」と、献身する温かい心の持ち主ばかりの講師の人たち。会議は和やかなムードに包まれたものでした。

岩間支える会　会長のあいさつから始まりました。講師団から寄せられたアンケートのまとめは、受講者一人ひとりの評価や、現在当面する課題を提起しました。

各講師からの自己紹介を兼ねた報告は、日ごろ接する人たちの姿を浮き彫りにして、ユーモアあふれる報告も多くありました。

問題点は、若い人たちが就職して来られなくなったり、また、孤児の年令の人たちの不参加が目立ち始めたことなどです。これらの視点に立ち、開講日や時間の変更、講師の配置のことなど、多くの事柄を話し合いました。

現在、教室の運営は訴訟原告団と支える会の両者で～となっていますが、財政的な支援を多方面に仰ぐ必要性や、日本語の受講だけでなく幅の広い相互交流の必要もあり、組織的な主体を確立することも話し合いました。

もう8年もつづける京都日本語教室をお手本にすることも話合いました。京都は厚・労省の外郭団体である中国残留孤児援護基金から資金を仰いでいることなどの提起も。岡山地元紙の福祉財団への資金要請も、話題となりました。

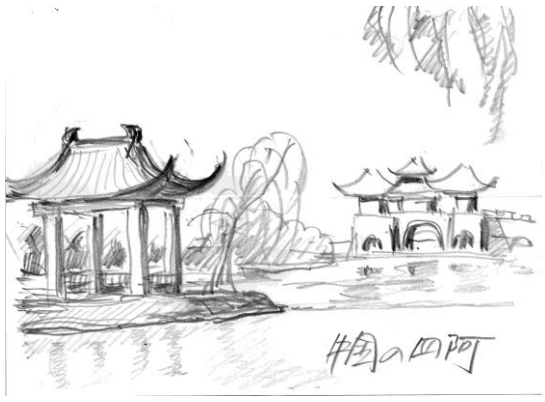
講師団会議は、新たな発展へ向けての論議を今後とも必要だと痛感しました。

中国とわたし　②

大森久雄

魯迅の世界

魯迅も中国を知る窓口になった。「藤野先生」には、叩頭（こうとう）のほかなかった。明治末年、清国留学生のノートの「てにをは」まで直された人のいたことを知り、救われる気がした。先生の写真を終生掲げた人も立派だ。高校三年生のとき、一九五七年、担任の内田暁郎（あきお）先生が「孔乙己（クンイーチー）」を読んでくださる。

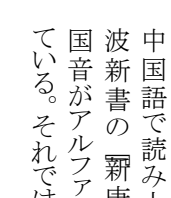


科挙くずれの田舎の読書人。酒場で笑いものにされ、いざりながら姿を消す。

先生は何を伝えられたかったのかと、今も思い返す。

志を得られなかった読書人への哀れみか、そのような人生を生んだ仕組みへの憤りか。

中途半端な学問はするなとの教えか。すでに鬼籍に入られた先生に、もはや問うすべもない。ずっと後に、上海の魯迅記念館で「惜別」藤野謹呈周君」と書かれている藤野先生の写真を見る。北京の旧居の部屋にも写真は掲げられていた。



それにつけ、太宰治の「惜別」は時流に乗り、はしゃぎすぎているように見えた。

中国史への関心

高校を出てからだったか、中国語を初めて聞いた。町内の新渓園で文芸講演会があり、中国文学者吉川幸次郎が杜甫を語られた。杜詩の一遍を中国語で読み上げられる。岩波新書の『新唐詩選』には中国音がアルファベットで表されている。それでは分からぬ語感に驚いた。漢文より中国語だと思った。しかし、ややあって、それらは別物だと思い直した。それにしても、中国語を習う機会はなかった。

大学の史学課程では、東洋史演習で『元史』食貨志を読んだ。牧野修二先生の研究室で中国の刊本をガリ版にし、テキストにする。簡野道明の『字源』を引き、読み下・・・せない。教場での重い沈黙の時。忘れがたい。一九五九年秋、京都国立博物館で特別展・隋唐の美術を見た。初めて接した異国の品々に見入った。もっとも、同行してくれた同窓の女性に気をとられ、何をみたか定かでない。岩波書店から中国詩人選集が出ていた。高橋和巳注の『李商隠』に心引かれた。中国史に関し、顧頡剛（こうきっこう）の『古史辨自序』（平岡武夫訳　創元社　昭和十五年）で読書人にあこがれた。魯迅の経歴を知ったことも重なっている。さて、書はいくらか読んだ。しかし、社会の木鐸にはほど遠い。

概説は、那珂通世『支那通史』（岩波文庫）、和田清『中国史概説』（岩波全書）、『京大東洋史』（創元社）の時代だった。後、貝塚茂樹の『中国の歴史』（岩波新書）に出会う。さらに後、顧の口述『中国史学入門』（小倉芳彦ら監訳・研文出版　一九八七年）で中国史研究が概観できた。実証とは――その本来の意味を考えさせられた。

北京・中華書局出版の二十四史と清史稿を内山書店から送ってもらった。読み通せはせぬ。しかし、そこに中国があるといえる。（続く）

民営化は値上げから

この4月から値上げです。

1万円まで70円だったのが、百円になり、それ以上の金額も30円ずつの値上げに。これは振替払込料金を加入者（日中友好協会）が負担する赤い紙を利用する場合、協会が貯金センターに手数料として払う金額のことです。たかが30円といっても団体にとっては痛いです。この一年月平均1500円くらいでした

（竹内）

郵便振替手数料のこと

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhong.web.infoseek.co.jp
新・メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp

471
2006/03/05

特権的な満鉄　憤る話を聞いて

徳方宏治（岡山市65歳）

朝日新聞2月22日付・声の欄より転載

（投稿者ご本人の手により一部加筆されています）

建国記念日を考える県民の集いに11日参加し、地元で中国「残留孤児」訴訟を支える会の事務局長をしている方の講演を聴きました。旧満州から帰国された方です。昭和20年7月にお父さんは現地招集されました。敗戦直後の大混乱の中、身重のお母さんに連れられて必死で逃げたそうです。9月2日に生れた弟は翌日に死亡。捕虜になっていたお父さんは脱走し、10月に再会。翌年、3人でやっと佐世保に着いたとのことでした。同席されていた残留孤児の方は、50歳前にやっと帰国できたものの、仕事がない、孤独な生活、中国に残した養父母のことなどを中国語で訴えられました。日本語が良く理解できないために、目があっても見えない、耳があっても聞こえない、口があってもしゃべれない」というもどかしさを聞きますと、どうして政府は彼らが30代の時期に帰国させる努力をしなかったのか」と本当に残念に思います。

満鉄についてのお話もあり、衝撃を受けました。敗戦の混乱の中、満鉄の社員や軍部の人たちは、一般の人々を置き去りにし、列車にのって帰国できた。自分のことだけしか考えなかった特権的な人たちのことが許せないと憤っておられました。実は私の父は満鉄の社員で、私たちの兄弟は全員満州生まれです。父が病気をしたため、昭和16年に家族で帰国しました。もし父が病気でなく敗戦後までいたとしたら、やはり特権を利用してさっさと帰国したのでしょうか。

申し訳ない」という気持ちを、今、自分の生活の中でどう生かせばよいのか。宿題を与えられたように思います。

「残留」孤児訴訟支援に５０万円をおくる

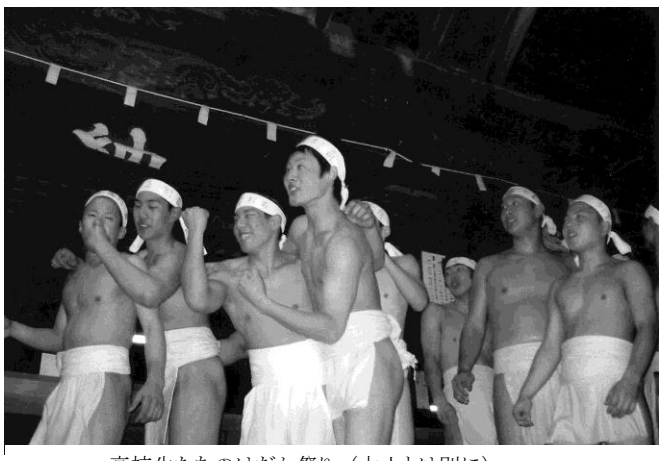
日中カレンダーの収益から

2月18日の全国理事会の会場で、訴訟の全国的連絡所となっている市民連絡会の佃、渕上両弁護士と原告の田中さんに、日中友好協会会長伊藤敬一さんから50万円が贈呈されました。ことしはあと少しで1万部にとどくところでした。岡山支部も大いに貢献。

（竹内）

奇祭西大寺　はだか祭りを見る

包　龍



高校生たちのはだか祭り（大人とは別に）

二月十八日の晩、この地方に伝わる祭りの一種、西大寺裸祭りを観賞してきた。このまつりは五百年の伝統をもっているため有名で、集まる人も大変多くいた。まつりと言えばほとんどが宗教的行事に纏わる。裸祭りも例外ではなかった。ここでは人々が、一年の豊作や無病を願い入れた宝木というのをもらうため我先にと争っていた。

そもそもこのまつりは、世界にでも他に類のないものではないかとも思える。なぜならこれは冬の一番寒いときに裸になるし、まして上から水をかけるとは更に苦しませるのである。このまつりの歴史的起源が私の中では定かではないが、本質的に言えば民衆をバカにし、故意に苦しめたい気持ちが起源の裏ではないかと考えられる。

もちろん人間とは罪のあるもので、この世に生まれたこと事態が苦しみである。という神学或いは仏教哲学にもとづいたものがある。しかしこれはあくまでも絶対的な話で、相対的に言えば人間にも幸福が存在するため、上記に記したわざと苦しめているというのは存立すると思える。

また仏教寺院であるにも関らず、そこで争いごとをさせて人々に怪我をさせていたことも注意すべきだと思う。本堂の台が小さいため、人がそこから落ちたり、喧嘩したり、していたことも見かけたのである。以上は批判的観点からみたが、そこに面白いこともたくさんあるのは言うまでもない。例えば裸にすることで、人々の注目を集め観衆を喜ばせてまつりをにぎやかにすることができる。そして経済効果も抜群である。

何百年の歴史があることで、文化的価値観も高い。

このように一つの行事が何百年も続けられることは、そこにいる人々がいかにも勤勉で努力家であることの表れだとも言えるだろう。

この裸まつりが庶民文化であるため、これからもこの人々の娯楽なり精神的支えになっていくことが、私には大変興味深いものである。

中国おやおや ①

中国の股開きズボン

中国で、このような風景を見かけたことがありますか？

皆さんはどう思いますか？

中国では0歳から3歳くらいの子供は「開襠裤」と呼ばれる、股の部分が開いたズボンを穿いている。このズボンは、**前からお尻の部分にかけてパックリと開いている**ので、しゃがめば、そのまま排泄することができる。そのお陰か中国の子供は1歳半ぐらいから自分で排泄ができるようになる。これだけの情報だと　排泄の習慣を促す素晴らしいズボンじゃないか」と絶賛したくなるが、このズボンについてちょっと賛否両論がある。

先ず、**ネガティブな意見**から

1．夏ならまだしも**真冬にお尻を丸出し**にして、冷たい空気に触れてお尻を真っ赤にさせてまで穿かせる必要があるのか、可哀相すぎる。病気になりそうだ。（これは日本人の意見）

2．場所構わずしゃがみ込んで用を足すので、**不衛生**極まりない。時には、道行く人にかかるという被害に遭われることもある。

しかも排泄行為について、まだ余りマナーを身に付けていない人が多い中、子供へのマナー教育の妨げになる。（日中両方の意見）

3．**格好が悪く、見た目**も悪過ぎる。（これは日本人の意見）

そして、**ポジティブな意見**。

1．中国の紙おむつは、まだ品質が良くなくしかも値段も高いのでむれる。

このズボンなら**経済的**だ。

2．厚着の中国ではズボンを脱ぐ時、風が入るので、返ってゾクッと冷えて体に良くない。脱がずに排泄する方が**寒くなくて済む。**

3．**体に良い。**「気」の概念で肛門を塞いでしまうと、体に良くないというのがある。何故良くないかと言うと、「気」が体の中に篭ってしまうので。（気が誤って体に向くとかなり危険な状態に陥るそうだ。

「気」とは、気功の「気」のことです。多くの中国人は気の存在を信じている。

宝馬

次回の新聞発送作業は

3月13日（月）1時半から民主会館で行ないます。

前回お手伝いくださった方々です。

澤山

竹内和

坪井

服部